

質問者	質問事項	質問の要旨	質問の相手
久保 勇太	働く世代の元気（まちを引っ張る産業の振興）に関して	<p>1 「UIJ ターン者の受け入れ窓口一元化」については、令和3年9月議会において質問を行った「窓口をワンストップ化し、住宅、仕事等に関して部署横断型の支援チーム」を組織することに近いイメージがあると考えられるが、具体的にいつから組成をはじめ、いつからの運用を想定しているのか。また、それは既設課等の組織再編によるものか、または全くの新規組織になるのか。</p> <p>2 「短期の労働需要に対応するための特定地域づくり事業共同組合の整備」に関して、生産年齢人口の増加につながる可能性のある事業であり、早い段階で設立して頂きたいと考えている。設立に向けた具体的なスケジュールや組合の構成員などはどのように考えているか。また、これは1次産業に限った組織となるのか。</p> <p>3 南大隅町は先月高齢化率が50%を突破し、そのような中で本町も50%を突破するのは時間の問題であると考えられる。人口の半数が高齢者となり、その方々の暮らしを支えていくためには、なんとしても働く世代の流入を促し、競争力のある産業振興を図る必要があるが、具体的にどの程度の人数の流入を促し、どのような産業を強化していく方針か。全体のスケジュールや規模感はどのように考えているか。</p>	町 長
	高齢者・障がい者の元気（安心して暮らせる助け合いと健康寿命を延ばす地域見守り型福祉の実現）に関して	<p>1 山間部の集落などは、高齢化率が80%、90%を超えている地域もあり、特に一人暮らしの高齢者などは日々の暮らしも大変ご苦労されている状況にある。例えば、高齢化に伴いやむを得ず離農をされ、一人暮らしを継続されていたが、それが厳しくなり、老健施設等への入所待ちで苦労されている方々も数多くいらっしゃる。そのような中で「地域ごとの生活支援を行う下駄ばきヘルパー制度」はどのような役割を担うのか。</p> <p>2 交通弱者の多様な移動手段を確保する対策として「コミュニティバスの路線の再編・拡充」、「乗り合いタクシーの導入」の検討を行っていく方針が示されているが、先般の実証事業である「おおすみ MMO」などで得られた実証結果をどのように反映し、どのようにして高齢者でも利用可能なサービスにどのように落としこんでいく方針か。</p>	町 長

		3 肝属郡医師会立病院の整備支援事業が進行しているが、南隅、特に町内の利用者を増やしつつ、病院経営を安定化していくために、どのような施策に取り組んでいく方針か。	
	地域の元気（自治会・公民館の個性に応じた地域づくり）に関して	<p>1 「ワーケーション、多拠点移住者、関係人口、政策共感型ふるさと住民制度等の構築」に関しては、令和3年9月議会において質問を行ったが、働く世代の直接の流入につながる今後の地方創生事業の核となる事業であり、ぜひ進めて頂きたいと考える。現在、「南国田舎ワーケーション」事業が進行しているが、今後のサテライトオフィス等の整備規模やスケジュールはどうなっているか。</p> <p>2 「ふるさと住民制度」に関して、本町にゆかりのある各地の町人会や県人会の皆様方を中心に共感いただくことが考えられるが、どの程度の規模を想定し、具体的にどのようなサービスを提供することを考えているか。</p> <p>3 「まちの駅」設置事業に関して、現段階で具体的な候補地や検討協議は進んでいるのか。また、既存の道の駅（にしきの里）との役割の棲み分けはどのように考えているか。</p>	町長
川越裕子	認知症や障がいのある人が活躍できる事業について	<p>認知症や障がいのある人が、就労や社会貢献活動の一端を荷負うことは大きな生きがいである。</p> <p>1 認知症フレンドリー事業の取り組みについては事業所の登録促進や福祉施設との連携について</p> <p>2 農福連携事業の導入支援について</p>	町長
	ポイ捨て等禁止条例（仮称）について	空き缶やプラ包装、最近ではマスクのポイ捨てが目立つようになった。また、犬や猫のふんを放置してある。町民のマナー向上と愛がん動物の飼育の責任を認識して頂く為にこれらに係る条例の制定が必要と考えるが、町長の考えを伺いたい。	町長
池田行徳	大原中学校跡地の活用について	<p>1 中学校跡地のキクラゲ栽培予定はどうなっているか。</p> <p>2 中学校跡地のグラウンドをドローンの練習場や基地として活用する考えはないか。また、体育館や校舎の一部をドローン、資材、農薬などの置き場として活用できないか。</p> <p>3 ドローンの免許取得に支援する考えはないか。</p>	町教育長

	町水道未整備地区の今後の考えについて	<p>1 町水道未整備地区においては、高齢化などにより水道の管理に苦勞されている所が増えている。行政としての支援策はどうなっているのか。</p> <p>2 田代新田の「平山水道組合」の水は新田グラウンドやでんしろの森のトイレにも供給されているが、水源地の水量が減少して支障が生じている。支援策をどのように考えるか。</p>	町	長
	沿岸部の災害時における避難所の開設について	<p>1 トンガ沖地震による津波警報での避難行動の問題点の把握はできているのか。</p> <p>2 津波警報発令時における避難場所としての総合交流センターの開設はどのようになっているのか。</p> <p>3 津波警報発令中の役場職員、消防団の活動規程は定められているのか。</p> <p>4 高齢者への携帯用避難グッズの支援策はないのか。</p>	町	長
久本晃	地域おこし協力隊について	<p>地域おこし協力隊（未来づくり専門員）導入効果として地域おこし協力隊・地域・地方公共団体の「三方よし」を目指す。と国が定めているがうまく機能していない部分があると感じる。</p> <p>錦江町としての地域おこし協力隊の導入理由、運営の現状、今後の展開についてお聞かせ願います。</p>	町	長
落司道子	高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりについて	<p>1 施政方針の中で、「下駄ばきヘルパー制度の導入」や「介護サポーター養成講座の地域別の開催」などが謳ってあるが、どういった方、ことへの支援の充実が図られると考えているか。</p> <p>2 介護している方（家族）同士でサポートする体制づくりは考えられないか。</p> <p>3 将来に対する個人の気持ちが分かるようにしておくことは、本人だけでなく、関わる人（家族など）にとっても大事なことと考える。また、家や農地など個人の財産をどうするかを考えるきっかけづくりとして「つなぐノート（仮称）」を導入する考えはないか。</p>	町	長
	奨学金制度の改定および医療福祉職等奨学金制度の創設について	<p>9月議会において、奨学金制度の改定（本町の奨学金制度を利用し、卒業後、一定の条件（町内に住所を有し、居住する、就労する等）を満たす方に限り、償還を免除する）や「医療福祉職等奨学金制度（仮称）」の創設について一般質問をした。新年度における予算措置等はみられないが、どういった検討がなされたのか。今後、制度の改定および創設する考えはないか。</p>	町	長

水口孝俊	木質バイオマス施設について	<p>1 平成31年3月に錦江町木質バイオマス資源活用計画が策定され現在に至ってきた。現在までの稼働は計画どおりに運営されているか。</p> <p>2 日本で最初の川場村では村が50%出資の第3セクター方式で製材、発電、農業ではイチゴハウスを営んでいた。今後、農業などについての利用は考えてないか。</p> <p>3 本事業を通じ「しごと」「なかま」「ひと」づくりを誘発し、「新しい絆」づくりにつなげていく可能性があるのか。また、稼げる事業に持っていけるのか。</p>	町長
------	---------------	--	----